

ペDESTリアンデッキ修繕計画

令和4年3月

(1)長寿命化修繕計画の背景と目的

1)背景

市は、平成 22 年度より「志木駅東口ペDESTリアンデッキ(以下、ペDESTリアンデッキ)を含む管理橋梁に対し、橋梁長寿命化修繕計画(以下、修繕計画)を策定して、橋梁の効率的な維持管理を図ってきました。管理橋梁 16 橋については、引き続き効率的な維持管理を行うことを目的として、平成 31 年(令和元年)度に修繕計画の更新を行いました。

この計画に続き、ペDESTリアンデッキについても、効率的な維持管理の継続を図るために修繕計画の更新を行います。

施設名	路線名	所在地	架設年年次	橋長(m)
志木駅東口ペDESTリアンデッキ	市道 1423 号線	志木市本町 5 丁目地内	1999 年	283.4



2)目的

- 計画的な維持管理を実施することで、ペDESTリアンデッキの安全性を確保します。
- ペDESTリアンデッキの長寿命化を図ることで、将来必要となるコストを縮減します。

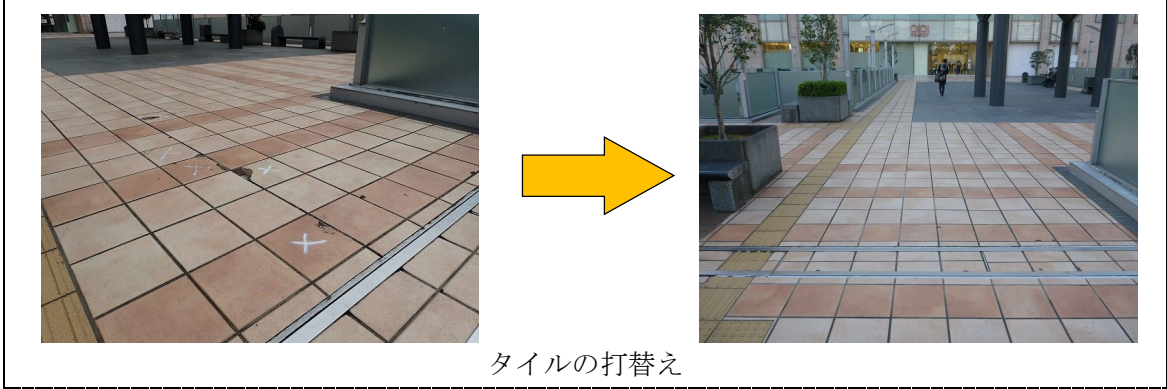
(2)維持管理の実施状況

平成 22 年度からの維持管理の実施状況は以下の通りです。

点検事例

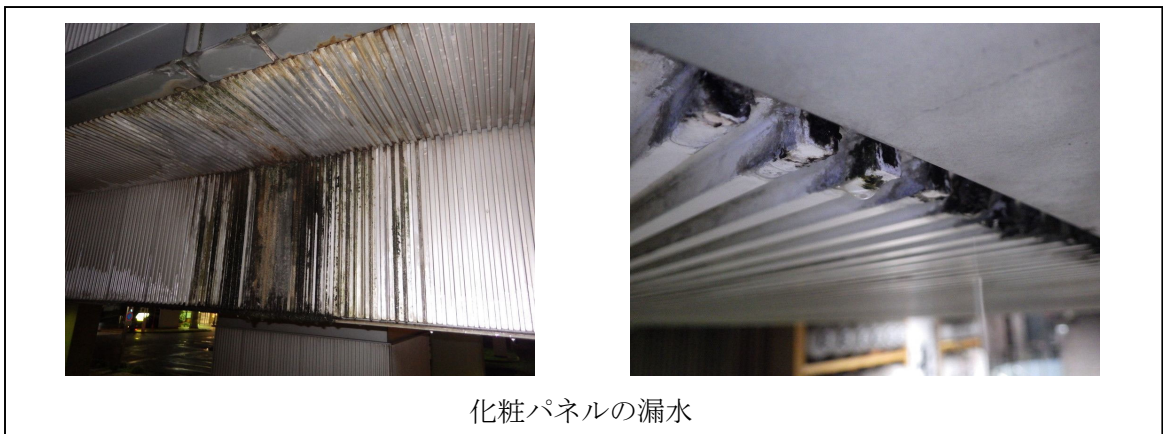


補修事例



(3) ペDESTリアンデッキの現状

定期点検の結果、主に以下の損傷が確認されました。



緊急性のある損傷は見られないものの、鋼部材の腐食が広範囲に見られることから「予防保全段階」に区分される II 判定 と診断いたしました。また、補修した箇所以外の化粧パネルから新たに漏水が確認されました。

判定区分

区分		定義
I	健全	横断歩道橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	横断歩道橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

(4)維持管理の方針

効率的で適切な維持管理のため、橋梁管理のマネジメントサイクル(PCDA サイクル)によって継続的に事業を進めていきます。

橋梁のマネジメントサイクルの流れ



(5)志木市の実状を考慮した管理シナリオ

志木市の実状を考慮して、維持管理の内容別に下記の4つの管理シナリオを設定しました。

管理シナリオ	維持管理内容
予防保全型	橋梁の長寿命化を目的としたLCCが縮減できる維持管理シナリオ
事後保全型	顕在化している深刻な損傷を補修した後、予防保全型へと移行させる維持管理シナリオ
更 新 型	補修による機能回復が困難な橋梁あるいは都市計画や河川改修計画等の影響を受ける橋梁について架替えを実施する維持管理シナリオ
減 築 型	交通需要が少ない、または維持管理費用を軽減するために撤去を実施する維持管理シナリオ

損傷の進行が軽微な段階で対応することで、橋梁の安全性を確保し、将来必要となるコストを縮減できる**予防保全型**の管理を基本とします。

(6) 今後の取り組み

1) 新技術の検討

ドローン等のロボットや人工知能(AI)による点検支援技術の活用および修繕における新材料や新工法の活用に向け、道路メンテナンスに関する新技術や技術開発の動向を把握し、点検作業の効率化や修繕コストの削減を目指して活用を検討します。

2) 費用の縮減

補修計画を立てるための詳細調査や 5 年毎に実施する定期点検等の現場作業をできるだけ集約させることで費用の縮減に努めます。

(7) 今後 5 年間で予定している事業計画

点検により診断した健全性をもとに事業計画の立案を行いました。ペDESTリアンデッキの補修を行うにあたって、より詳細な調査を行うために化粧パネルを取り外す計画としました。今後 5 年間で予定している内容は以下の通りです。

今後 5 年間にける修繕計画年次表

橋梁名	路線名	橋長 (m)	最新 点検 年次	健全性	工事および調査・計画の時期（今後5年間）				
					2022 (令和4年)	2023 (令和5年)	2024 (令和6年)	2025 (令和7年)	2026 (令和8年)
志木駅東口 ペDESTリアンデッキ	市道1423号線	283.40	2021年	II			化粧パネル の撤去	詳細調査	修繕計画 の更新

(8) 計画策定担当部署

志木市 都市整備部 道路課
〒353-8501 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
TEL:048-473-1111(代表)